

vol. 2294

[発行] 大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】 大野 真二

【印刷】 (株)佐伯コミュニケーションズ

【売価】 30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 退職予定者集会
- 第32回日教組人権教育実践交流集会

退職予定者集会

とき 3月4日(土) ところ ソレイユ

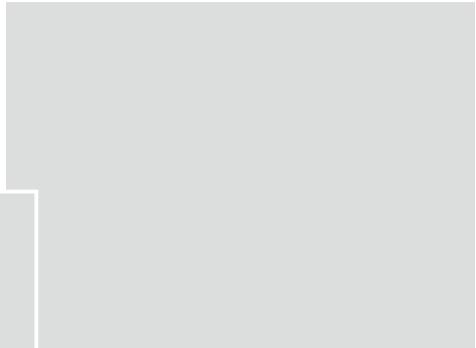
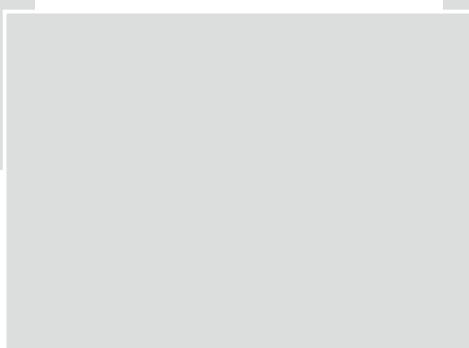
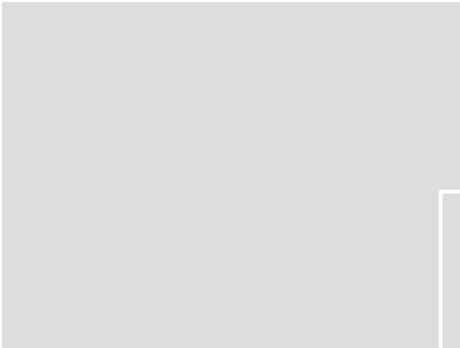
3月4日(土)に、22年度末に退職する組合員を対象に、退職予定者集会を開催し、17名の組合員が参加しました。

集会では、梶原悟高退教長はじめ、来賓の方に挨拶をいただき、大野委員長が一人ひとりに感謝状と記念品を贈呈しました。退職予定者を代表して、堀田秀俊さん(安心院分会)より、あいさつを頂きました。教研を中心に、これまでとりくんできた活動について語っていただき、改めて高教組のとりくみや仲間の大切さを実感できました。

休憩の後、教職員互助会・教職員共済・ろうきんから、退職時の手続き等についての説明があり、最後に岩男忠典青年部長(中津東分会)が、お祝いの言葉と今後の決意を述べました。

新型コロナウイルスの影響で、交流会は実施できませんでしたが、多くの組合員に参加していただきました。

これまでの高教組運動へのご協力に深く感謝いたします。これからのご健勝とご多幸をお祈りいたします。今後も、お元気でお過ごしください。



「緑の山河」齊唱

岩男青年部長あいさつ

堀田秀俊さんあいさつ

第32回 日教組人権教育実践交流集会

とき 2月25日（土） ところ 日本教育会館 他

「第32回日教組人権教育実践交流集会」が開催され、大分高教組からは藤原寛理さんが参加しました。
以下、還流報告です。

2月25日（土）、26日（日）（場所：日本教育会館、東京都復興記念館など）に、「第32回日教組人権教育実践交流集会」に参加しました。

初日前半は、全体会が日本教育会館にて行われ、部落解放同盟本部書記長の赤井隆史氏より「水平社創立101年を迎える部落解放運動のすむべき方向について」と題した講演がありました。その中で、昨今は「すべての人に人権を」という捉え方の意図的な拡散があるが、「人権が侵害されているマイノリティにこそ人権を」と改めて認識をすることの重要性、ドイツのメルケル首相が在位15年を超える長期政権となったことでドイツの子どもたちの中に「首相は女性が務めるもの」という認識が広がったように「常識は塗りかえられる」こと、また、現日本では人権を守るための一般法がないため、部落差別行為についても、侮辱の意志がなければ（たとえば、旧部落地域や解放運動に携わる人々の個人情報をインターネットに掲載するだけでは）差別とは認められない（あくまでプライバシーの侵害でしかない）という法的な問題点・法的に差別を禁止することの重要性などについて学ぶことができました。

後半は、4つの分科会に分かれ、私は「子どもの権利条約と人権教育」について研修を受けました。テーマは大きく分けて2つあり、「公立夜間中学の設置・運営」・「子どもの権利条約12条に規定される意見表明権を踏まえた主権者への学び」。前者では、大分県内ではまだ実現していない政策に新鮮な驚きを感じつつも、これまで高校に勤務し不登校傾向のある生徒と接し実際にそうした生徒の中学時代の話などを聞いた経験から、子どもの学ぶ権利を尊重する教育環境の創設の重要性を感じました。後者では、現在の授業をはじめとした教育環境での「意見表明権」を実現する難しさ、またその貴重な実践事例を学ぶことができました。

2日目は、3つのコースのうちの1つ、関東大震災・亀戸事件コースでフィールドワークを行いました。中央大学の中條克俊特任教授の解説のもと、同震災に関連して起きた朝鮮人虐殺事件の痕跡を辿りました。

どの講演・研修でも、現代の日本の抱える様々な問題・課題に実際に立ち向かう当事者の「現場の声」を聴くことができ、普段の生活では学習しえないこうした体験を、教育の現場で生かしていくなければならないと改めて感じました。

（日田分会 藤原 寛理）